三重短期大学附属図書館

＃優しい世界

February – March 2021

こんな本読んでみて

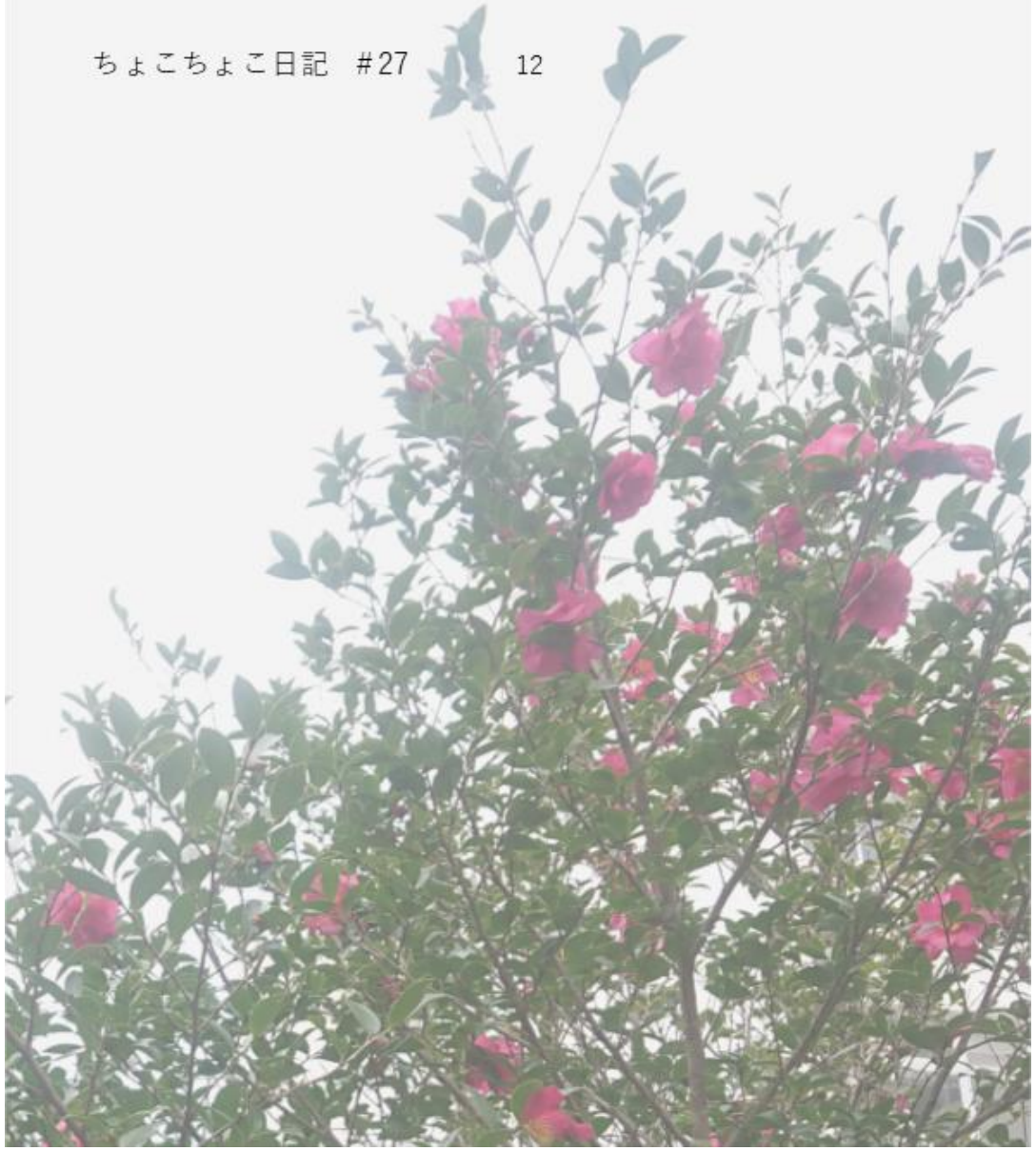
take free　No.87

目　次

＃優しい世界　1

Book design の 世界 vol.17　10

ちょこちょこ日記　＃27　12



＃優しい世界

瀬尾まいこさん特集

今回は瀬尾まいこさんの作品を大特集。

どれも読んでほしいから

図書館所蔵の15冊、全部紹介します！

瀬尾 まいこ さん

1974年、大阪府生まれ。大谷女子大学文学部国文学科卒。2001年、「卵の緒」で坊っちゃん文学賞大賞を受賞。翌年、単行本『卵の緒』で作家デビュー。2021年2月『その扉をたたく音』刊行予定。

『図書館の神様』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／マガジンハウス

出版年／2003年

海の見える高校に講師として赴任した清は、思いがけず文芸部の顧問になります。部員はたった一人、垣内くんだけ。「僕は毎日違う言葉をはぐくんでいる」そうきっぱりと言う垣内君。清と垣内君のテンポのいい会話が楽しくて、爽やかな気持ちになりました。文学してみたくなる、言葉の力を信じてみたくなる、そんな一冊です。

『天国はまだ遠く』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／新潮社

出版年／2004年

辛い毎日から逃れるために千鶴が辿り着いたのは、山奥にある「民宿たむら」でした。民宿の田村さんと出会い、地の食べ物や自然の力に元気を取り戻していきます。読みながら自分も澄んだ空気に包まれているような気持ちになって癒されました。

『幸福な食卓』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／講談社

出版年／2004年

「父さんは今日で父さんを辞めようと思う」という、とても幸福とは言えないようなセリフでこの物語は始まります。食事のシーンが多く描かれるのも瀬尾さんの作品の魅力の一つ。この作品にもおいしそうな食べ物がたくさん登場します。どんな食卓なのか、ぜひ読んでみてください。2005年吉川英治文学新人賞受賞作。

『優しい音楽』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／双葉社

出版年／2005年

優しい3つの物語がおさめられた短編集です。突然声をかけてきた女性とその家族。人には言えない恋人の娘。拾ってきたおじさん。思いがけない出会いをきっかけに一歩踏み出す姿に、小さな勇気がわいてきます。人とつながろうとすることの大切さを実感しました。

『温室デイズ』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／角川書店

出版年／2006年

中学3年生のみちると優子は、荒れた学校を元に戻そうとそれぞれに行動を起こします。苦しい状況の中でも、自分にできることを模索して動き出す姿に、様々な種類の強さを感じました。タイトルの「温室」とはどういう意味なのかを考えさせられました。

『ありがとう、さようなら』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／メディアファクトリー

出版年／2007年

瀬尾さんは、2011年まで中学校の先生を続けながら、作家としても活動されていました。この本は作家デビューしてから3年半の間の中学校での日々をつづったエッセイ集です。瀬尾さんの作品を通して描かれる、温かなまなざしはこうした日々から生まれたものなんだとしみじみ思いました。

『戸村飯店青春100連発』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／理論社

出版年／2008年

大阪にある中華料理屋・戸村飯店の二人息子の兄・ヘイスケと弟・コウスケ。ヘイスケは高校卒業後、東京へ。コウスケは高校最後の一年を全力で駆け抜けます。兄弟だからこそ言えない思いがあって、相手の知らないところでお互いに思い合う、そんなさりげない優しさがとても素敵。心温まる物語です。2008年坪田譲治文学賞受賞作。

『おしまいのデート』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／集英社

出版年／2011年

「生きていればどんなことにも次がある」切ないけれど温かい5つの物語をおさめた短編集。祖父と孫、教師と生徒、同じクラスの男子、OLと大学生と犬、保育士と園児とその父親、色々なデートが描かれています。読み終わった後で装丁をじっくり見ながら余韻に浸りたいです。

『あと少し、もう少し』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／新潮社

出版年／2012年

頼りない陸上部顧問の美術教師と寄せ集めのメンバー6人で中学最後の駅伝大会へ挑戦する物語。誰かとがんばるって貴い、そして、がんばるってかっこいい。駅伝を通じて、一人一人成長する姿が、キラキラ輝いています。一緒に走り出したくなりました。

『僕らのごはんは明日で待ってる』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／幻冬舎

出版年／2012年

高校最後の体育祭をきっかけに付き合い始めた葉山君と上村さんの物語です。誰かとごはんを食べることの幸せを深く感じました。悲しみとどう向き合うのかを考えるとき、この本のことを思い出します。

『春、戻る』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／集英社

出版年／2014年

料理教室に通うさくらの元に、兄と名乗るどう見ても年下の男の子が現れます。正体不明の男の子は、さくらの婚約者の山田さんの和菓子屋さんに通ったり、料理を教えたりと何かとさくらの結婚を気にかけます。謎の男の子の存在に戸惑いながらも読み進めると、迎えるラストにぐっときます。

『君が夏を走らせる』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／新潮社

出版年／2017年

『あと少し、もう少し』の登場人物の一人、高校生になった大田君の物語。一か月の間、先輩の1歳10か月の娘・鈴香ちゃんの世話をすることになります。22回も同じ絵本を繰り返し読み聞かせたり、会わない日には食べてもらいたい料理を試作したり、大田君が鈴香ちゃんにどっしりとまっすぐ向き合う姿が印象的です。

『傑作はまだ』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／ソニー・ミュージックエンタテインメント

出版年／2019年

作家・加賀野の元へ、生まれてから一度も会ったことのない25歳の息子・智が突然やってきて、しばらく一緒に暮らすことになります。息子が淹れたコーヒーやコンビニのからあげがこんなに美味しいこと、自分が暮らす地域のことなど、新しく知っていく加賀野さんにほっこりします。

『そして、バトンは渡された』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／文藝春秋

出版年／2018年

17歳の優子は水戸、田中、泉ヶ原、森宮、4回も苗字が変わったけれど「全然不幸ではないのだ」。優子はいろいろな形の愛に包まれていて、読むと気持ちがやわらかくなります。個性的な登場人物が魅力的で、読み終わる頃にはみんな大好きになっていました。この優しい気持ちをつないでいきたいです。2019年本屋大賞受賞作。

『夜明けのすべて』

著　者／瀬尾まいこ

出版社／水鈴社

出版年／2020年

同じ会社で働く藤沢さんと山添くんは、それぞれPMS(月経前症候群)とパニック障害を抱えています。互いに世話を焼く二人のやりとりが楽しくて、読みながら声を出して笑っていました。誰かのために自然と行動したくなる気持ち、とても素敵だなと思いました。瀬尾さんの作品を読んで、物語のその後を想像しながら余韻にひたるのも幸せな時間。これからの二人の前に優しい世界が広がりますようにと願っています。

Book design の世界

vol.17

緒方　修一さん

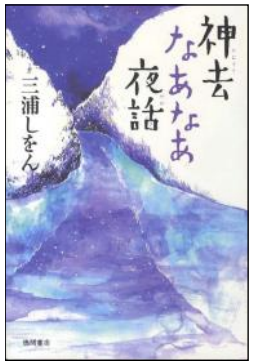
本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第17回目は、緒方修一さん のブックデザインをご紹介します。

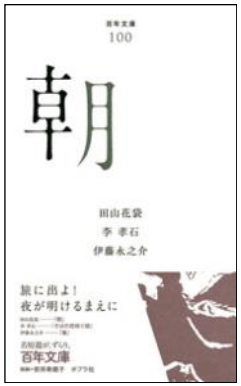
装幀家・アートディレクターの緒方修一さんは、新潮社装幀室を経て独立、1994年にはドイツの「世界で最も美しい本コンクール」で銅賞を受賞されました。これまでに沢木耕太郎、宮部みゆき、宮本輝などの書籍の装丁を手掛けられました。３ページでご紹介した『優しい音楽』も緒方修一さんの装丁です。

はじめにご紹介するのは**『神去なあなあ日常』**(三浦しをん著／徳間書店／2009年／913.6||Mi　67)。そして続編の**『神去なあなあ夜話』**(三浦しをん著／徳間書店／2012年／913.6||Mi 67) です。



装画：金子恵
装幀：緒方修一

三重県の山奥にある村を舞台に、林業の仕事と村の人々が魅力的に描かれた物語です。タイトルの「なあなあ」は「ゆっくり行こう」というような意味。表紙のタイトルが「なあなあ」と語り掛けてくるような文字で書かれています。金子恵さんの装画が美しく、季節の移り変わりや村の空気感が伝わってきます。２冊並べると装丁の魅力が倍増します。



装画：安井寿磨子
装幀･題字：緒方修一

『朝』(田山花袋ほか著／ポプラ社／2011年／908.3||Hy 99||100)は、百年文庫の最終巻です。百年文庫は、日本と世界の名短篇を収録し、１冊で３人の文豪の作品が味わえるシリーズです。テーマとなる漢字一文字の題字も緒方さんによるもので、洗練された印象が際立ちます。画家・安井寿磨子さんによる木版画が使われた、美しい造本に注目です。

『ふたつの月の物語』(富安陽子著／講談社／2012年／913.6||To 59) は、二人の少女が出会い、村の秘密にせまるファンタジー作品。カバーには、絵本作家・酒井駒子さんの絵が使われています。幻想的な二人の少女の姿が印象的です。不思議な世界へ導かれるようで、物語の導入としての装丁の力を感じます。

装画：酒井駒子
装丁：緒方修一

カバー写真：@imaggio
装丁：緒方修一

今回最後にご紹介するのは**『約束』**(石田衣良著／角川書店／2004年／913.6||I 72) です。苦しみから前を向こうとする人々の姿を描いた短編集です。やわらかな色合いの写真が本に寄り添って、希望を感じさせてくれる装丁です。

洗練された本の佇まいを感じる緒方修一さんの装丁。本の内容になめらかに導かれる、そんな装丁の魅力を味わうことができました。

参考：OGATA BOOK DESIGNホームページ　https://www.oldnews-co.com/

ちょこちょこ日記 #27 「mietan_library」

三重短図書館、インスタグラムはじめました！

これまでに図書館ホームページや三重短期大学公式Twitterなどで図書館からの情報を発信してきました。もっと図書館から三重短生のみなさんに情報をお伝えしたり、何か新しいサービスができるといいなと思い、昨年9月からインスタグラムの投稿をはじめました。

三重短図書館のイベント情報、今の図書館の様子やおすすめの本の情報など発信していきたいと思います。不定期投稿にはなりますが、図書館の楽しさを少しでも発見してもらえるとうれしいです。また、三重短生の方は、アカウントをフォローしてもらうとDMで様々なサービス(簡単なご質問・調べ物相談など)をご利用いただくこともできます。どうぞご利用ください。

ユーザーネームは【mietan_library】です。こちらのQRコードからぜひのぞいてみてください。よろしくお願いします。

MIETAN_LIBRARY

こんな本読んでみて　No.87

２０２１年２月１日　発行

編集･発行　三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

http://www.library.tsu-cc.ac.jp/